

平成 30 年 12 月 20 日

口腔粘膜炎と腎機能障害に関係があることを解明

◆発表のポイント

- ・ 口腔粘膜炎はがん治療（注 1）の副作用によって口の中で発生する、強い痛みを伴う病気です。
- ・ 腎機能障害がある状態でがん治療を行うと、重度の口腔粘膜炎が発生することが分かりました。
- ・ がん治療前に腎機能の改善をしておくことで、口腔粘膜炎による苦痛の軽減が期待できます。

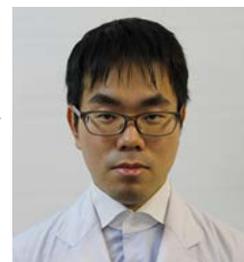
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科予防歯科学の森田学教授と宮井久敬助教らのグループは、同大耳鼻咽喉・頭頸部外科学、形成再建外科学、岡山大学病院頭頸部がんセンターとの共同研究で、腎機能障害がある頭部がん患者に放射線治療や抗がん剤治療を行うと、重度の口腔粘膜炎が発生するリスクが高まることを解明しました。腎機能障害により、電解質バランス異常（注 2）や抗がん剤の尿への排泄が不調となることが原因の 1 つではないかと考えられます。この研究成果は、12 月 8 日にアメリカの科学雑誌「*In vivo*」（オンライン版）に掲載されました。

がん治療の副作用で患者に口腔粘膜炎が発生してしまうと、口の中の痛みがひどくて食事ができず、低栄養状態となります。重度の場合は、がん治療そのものが中止になることもあります。口腔粘膜炎の予防は、入院中の生活の質の向上だけでなく、がん治療の完遂にとっても大変重要です。

がん治療を行う前に腎機能障害の検査や治療を行うことで、患者のがん治療の遂行を邪魔する口腔粘膜炎の発生を食い止める可能性があります。この成果によって、がん治療の治療予後に貢献できることが期待できます。

皆様の血と涙の結晶です！この研究に携わっていただいた皆様に圧倒的感謝！

アドバイスをいただいた医科の先生方、ならびに協力いただいた看護師の方々に厚く御礼申し上げます。



宮井助教



PRESS RELEASE

■発表内容

<現状>

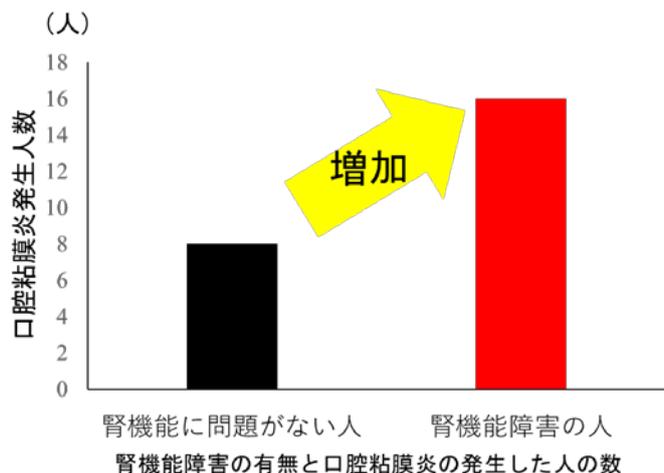
2014年に新たに診断されたがんは867,408例（罹患全国合計値：男性501,527例、女性365,881例）であり、年々増加し続けています。そんな中、がん治療の1つとして「放射線化学療法」という治療法が行われるケースが増えてきています。がんを切除しない分、審美的にも精神的にも有効な治療法である反面、口腔内に「口腔粘膜炎」という病気が発生することが知られています。

「口腔粘膜炎」は患者に痛みを与えるだけでなく、その痛みが原因で食事ができなくなり、抜本的な治療法がないために、重度の場合はがん治療を中断する場合があります。よって、「口腔粘膜炎」の発生を予防することは、患者の苦痛を軽減するという点やがん治療を円滑に進めるために必要なことだと考えられています。

<研究成果の内容>

「口腔粘膜炎」が発生する要因はまだ良く分かっていませんが、リスクを引き上げる因子があるのではないかと考え、データ解析を行いました。

その結果、頸部がん患者において、腎機能障害がない人とある人で発生人数に差が生まれることが確認されました（図）。



<社会的な意義>

がん治療を行う前に腎機能について調べ、異常がある場合には先に治療を行うことで、がん治療時の「口腔粘膜炎」の発生確率を下げられることが示唆されました。がん治療を円滑に進めるだけでなく、患者さんのがん治療時の苦痛を少しでも軽減でき、生活の質の向上になると考えられます。

■論文情報

論文名：Relationship Between Renal Dysfunction and Oral Mucositis in Patients Undergoing Concurrent Chemoradiotherapy for Pharyngeal Cancer, A Retrospective Cohort Study

掲載紙：In vivo

著者：HIROFUMI MIZUNO, HISATAKA MIYAI, AYA YOKOI, TERUMASA KOBAYASHI, CHIAKI INABU, TAKAYUKI MARUYAMA, DAISUKE EKUNI, NOBUYOSHI MIZUKAWA, SHIN KARIYA, KAZUNORI NISHIZAKI, YOSHIHIRO KIMATA, MANABU MORITA

DOI: 10.21873



PRESS RELEASE

■補足・用語説明

注 1：がん治療

がんを治すために行う治療には主に「外科的切除」「放射線治療」「抗がん剤治療」が存在します。特に口の中に近い領域のがんは、審美面や機能面の問題から、放射線や抗がん剤が選択されることが多い傾向にあります。

注 2：電解質

人の体は「有機質」と「無機質」によって構成されています。この内、無機質のものにはナトリウムやカリウムなどのイオンが存在し、体の浸透圧などをコントロールしています。電解質バランスが崩れると、体にさまざまな影響が出ることがわかっています。

<お問い合わせ>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（歯）

教授 森田 学

（電話番号）086-235-6712

（FAX）086-235-6714



岡山大学は、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」を支援しています。